# 第２学年道徳指導案

平成 17 年 10 月 28 日（金）２校時
２年１組(男 20 名　女 15 名　計 35 名)
指導者　　児玉　真由美

1　主題名　　かぞくのために　（４－(2)家族愛）
2　資料名　　サバンナの子ども（出典　学研）
3　主題設定の理由

（１）価値について

第１学年及び第２学年の内容項目４－(2)は，「父母，祖父母を敬愛し，進んで家の手伝いなどをして，家族の役に立つ喜びを知る。」となっている。家族集団とのかかわりに関するものであり，家族や家庭を愛する心をもった児童を育てようとする内容項目である。主に，第３学年及び第４学年では，４－(3)「父母，祖父母を敬愛し，家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる。」に発展し，第５学年及び第６学年では，４－(5)「父母，祖父母を敬愛し，家族の幸せを求めて，進んで役に立つことをする。」に発展している。

家庭は，道徳性の基盤となるところである。精神的安定を得る場であり，基本的生活習慣を身につける場である。児童は，見返りを期待しない無償の愛に支えられ，親や祖父母によって育まれてきた。そしてこれからも，衣食住などの生活面と，人間としての基本的な考え方や心の安定などの精神面で支えられていくのである。家族とのかかわりの中で，思いやる心や敬愛の心情が育まれていき，感謝，信頼，親切，勤労，責任感などの形をとって広がっていくのである。しかし，現代社会は，生活の省力化，核家族化，少子化，単身赴任などが家庭生活に影響を与え，父母，兄弟姉妹，祖父母などの家族とのふれあいや家族のために進んで仕事をすることが少なくなってきている。

この時期の児童は，自分のことは自分でやろうという主体性も出てきているが，まだ自己中心的なところがあり、家族のためにという意識は弱い。そこで，家の手伝いなどを行って家族と積極的に交わり，家族の一員として役に立つ喜びを実感させ，家族のために役に立とうという気持ちを持てるように指導していくことが大切であると考える。

（２）児童について

本学級の児童は，参観日などでお家の人が来てくれたときのうれしそうな顔や，お父さんとお母さんのことを話す様子などから，お父さんやお母さんのことが大好きであるということが伝わってくる。また，生活科の学習や夏・冬休みに，手伝いをして家族に喜んでもらえた経験のある児童も多い。普段から自分の仕事が決まっていて家の仕事をしている児童もいる。仕事が楽しい，好きだと感じて継続している児童もいる。その反面，「親との約束だから仕方なく。」「何か見返りがあるから。」というような理由から行っている児童もいる。さらに，生活科の学習や夏休みや冬休みの期間だけ行って，普段はやっていないという児童もいる。児童に「家族のために仕事をして，役に立とう。」という気持はまだあまり育っていない。

そこで，自分が家の仕事をすることによって，家族がどれほど喜んでくれているのか，どれだけ家族の役に立っているのかということについて気づかせたい。自分が家族の役に立っているという喜びを実感させ，これからも家族の一員として家族のために役に立とうという気持ちを育てていきたい。

（３）資料について

本資料は，サバンナのキウオ村に住むラジャブの話である。毎日学校から帰ると，村に一つしかない共同井戸まで水汲みに行くが，水汲みをいやだと言ったことは一度もない。夕食後，ラジャブの汲んできた水で入れたチャイを飲みながら，家族で話し合うときが，ラジャブは大好きだという内容である。

外国の話であり，しかも生活環境が全く異なり，理解するのに難しい面もあるが，現実の話であることをとらえさせたい。児童の体験からラジャブの仕事の大変さを感じとらせ，それでもラジャブがその大変な仕事をして家族を支え，家族の団欒も喜びにもなっていることを通して，家族のために進んで手伝いなどをして役に立つことの大切さに気づかせるのに適した資料であると考える。

（４）授業の構想について

「深める」段階では，毎日の水汲みの大変さを感じ取らせるために水を入れたバケツを持たせる擬似体験を取り入れたり，家での手伝いの経験を思いおこさせたりしながら，苦痛もあるが，それでも一度もいやだと言ったことのないラジャブの思いを考えさせたい。ラジャブの汲んできた水で入れたチャイを飲みながら，家族で話し合うときが大好きだということから，自分のしている水汲みの仕事が家族の役に立っていることの喜びや満足感，家族が喜んでくれていることの喜びを感じ取らせ，仕事をする意欲につながっていることに気づかせたい。

「見つめる」段階では，自分が家族の役に立ったこととその気持ちを発表させ，自分たちも役に立っているということを実感させ，さらに役に立ちたいという気持をもたせたい。

4　全教育活動における本時の位置付け

＜教科・総合的な学習の時間＞　＜道徳の時間＞　＜特別活動・日常生活＞　＜子どもの意識＞

家族愛

学級活動「係を決めよう」【4･8･1月】
　進んで係の仕事をしようとする意欲を持つ。

図工「母の絵」【５月】
　「父の絵」【６月】
　父母に感謝しながら絵に表す。

主題名　つらくてもやりぬく　【６月】
　１－(2)勤勉・努力
資料名　がんばれポポ
ねらい　つらくても自分がしなければならないことは，最後までやりとげようとする気持ちを育てる。

係活動　【年間を通して】
　自分の仕事をしっかりやる。

・自分の仕事をがんばろう。

・いつもありがとう。
・お父さん，お母さん大好き。
・お母さんはいつも家でたくさんの仕事をしているんだ。
・家の仕事も結構大変だ。

主題名　かぞくみんながせかいー　【８月】
　４－(2）家族愛
資料名　とうさんがつくったたこは，せかいいち
ねらい　父さんだぬきが作ってくれた凧を大切に思う子だぬきの気持ちを通して，父母を敬愛し、家族の役に立とうとする気持ちを育てる。

家の仕事　【夏休み】
　自分ができる家の仕事を見つけ毎日続けようと努力する。

・お父さんやお母さんは自分のことを大事に思ってくれている。
・自分もお父さんやお母さんを大事にしたい。
・家族のために，役に立つことをしよう。

主題名　「おかあさんありがとう」　【９月】
　２－(4）尊敬・感謝
資料名　きつねとぶどう
ねらい　身近で世話をしてくれる人々の愛情に気づき、感謝する気持ちを育てる。

「心のノート」　【９月】
手伝いの体験や家族の願いを記入する。

・家の中には、たくさんの仕事があるんだな。やってみよう。

本時

主題名　「かぞくのために」　【10月】
　４－（2）家族愛
資料名　サバンナの子ども
ねらい　家族の一員として仕事をし、家族の役に立つ喜びを感じているラジャブの気持ちを通して，家族のために進んで手伝おうとする気持ちを育てる。

生活「いえでもたのしみたいね」
【10・11月】
　家族生活を支えている家族のことや自分でできるようになったことなどについて考え、自分の役割を積極的に果たそうとする意欲をもつ。

家の仕事　【冬休み】
　家族の役に立つ仕事に進んで取り組む。

・自分も家族の役に立っているんだ。
・家族みんなに喜んでもらえてうれしい。
・これからも家族の一員として役に立つような仕事をしていきたい。

学級活動「わたしのたんじょう」
【２月】
　誕生までの母親とのつながりや、家族の苦労や喜びを知り、愛情の深さを感じ取る。

４－(2）家族愛
　父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。

・家族が喜んでくれるように進んで家の手伝いをして，役に立とう。

5　本時の指導

（1）ねらい　　家族の一員として仕事をし，家族の役に立つ喜びを感じているラジャブの気持ちを通して，家族のために進んで手伝おうとする気持ちを育てる。

（2）展開

| 段階 | 学習活動と主な発問 | 予想される児童の発言や心の動き | 指導上の留意点や支援 |
|---|---|---|---|
| 気づく<br>10分 | 1　家庭でどんな仕事をしているか発表し合う。<br>○家でどんな手伝いや仕事をしていますか。どんな気持ちでやっていますか。 | ・ごはんを作る手伝いをしています。楽しいです。<br>・玄関掃除をしています。めんどくさいけどやっています。 | ・家庭で行っている仕事を想起させ，価値への方向づけをする。 |
| | 2　資料を読み，学習のねらいを持つ。<br>○この話を聞いた感想を発表しましょう。 | ・毎日、仕事をしていてりっぱだ。<br>・学校に行く前や学校から帰ってきて仕事をしなければならないのは大変だ。<br>・水汲みの仕事は、大変そうだ。<br>・みんなでチャイを飲みながら話をしていて楽しそうだ。 | ・地図や，写真などを提示して，サバンナの生活の様子を知らせ，現実の話であることをとらえさせてから資料を読ませる。<br>・ラジャブについての感想をもとに，学習課題をたてる。 |
| | 毎日水くみをしているラジャブの気もちを考えよう。 | | |
| 深める<br>20分 | 3　「ラジャブ」の気持ちを中心に話し合う。<br>○学校から帰るとすぐ水汲みにいくラジャブは，どんな気持ちなのでしょう。 | ・お姉さんも水汲みをしているから，ぼくもやらなきゃ。<br>・嫌な気持ちもあるが，やらなきゃいけない。<br>・毎日の仕事だから仕方がない。<br>・重くて大変だ。 | ・共同井戸の様子や水の入ったバケツを持つ擬似体験をさせることで水汲みの大変さを実感させる。<br>・家の仕事の体験活動から，面倒になったり，いやだけどやらなければならなかったりしたことなどを想起させ，ラジャブにも同じような気持ちがあることもとらえさせたい。 |
| | ○水汲みを一度も嫌だと言ったことのないラジャブは，いつもどんなことを思いながら水汲みをしているのでしょう。 | ・水汲みは，自分の仕事だ。<br>・家族のために頑張らなきゃ。<br>・自分がやらないと家族に迷惑をかけてしまう。<br>・水汲みをすれば家族が助かる。<br>・家族が喜んでくれる。 | ・水がとても貴重であり，水を汲んでくることで家族が助かることをおさえ，大変な仕事をしているラジャブの家族への思いをとらえさせたい。 |
| | ◎ラジャブが汲んできた水で入れたチャイを飲みながら家族と話をしているラジャブは，どんなことを思っているのでしょう。 | ・おいしい。<br>・ぼくの汲んできた水で，チャイが飲めてうれしい。<br>・家族と仲良く暮らせて幸せだ。<br>・家族みんなに喜んでもらえてうれしい。<br>・頑張って水汲みをしてきてよかった。<br>・ぼくの汲んできた水が役に立っていてうれしい。<br>・家族が喜んでくれるので、またがんばろう。 | ・家族の一員として役に立っている喜びや満足感，チャイを飲みながら家族みんなで話し合うことのできる喜びをとらえさせ，家族の役に立つためにがんばろうという意欲につながっていることに気づかせたい。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 見つめる<br>5分 | 4　今までの自分を振り返る。<br>○今までに,家族の役に立てた,家族に喜んでもらえたということはどんなことですか。また，その時どんな気持ちでしたか。 | ・洗濯物をたたんだら，お母さんにありがとうって言われてうれしかった。<br>・お母さんが具合悪かったとき，夕飯づくりをした。助かったって言ってくれた。<br>・玄関掃除をしたら、きれいで気持いいねと喜んでくれた。やってよかった。また、やろうと思った。 | ・心のノートに記入したことや，夏休みや生活科でやった家庭での仕事を思い出させる。<br>・家族の役に立った経験があることを紹介させ、自分も家族の役に立っていることに気づかせたり，喜びを感じ取らせたりしたい。 |
| まとめる<br>10分 | 5　まとめをする。<br>○おうちの方からのお手紙を読みましょう。 | ・お手伝いしてよかった。<br>・こんなに喜んでくれている。<br>・これからももっと手伝いをしよう。<br>・毎日手伝いを続けよう。 | ・おうちの方には，今までの手伝いで助かったことやうれしかったこと，家族の一員としてこんな人になってほしいという願いなどを手紙にしてもらう。<br>・家族の役に立つ喜びを感じさせ，家の手伝いの意欲づけを図る。 |

6　板書計画

サバンナの子ども

毎日水くみをしているラジャブの気もちを考えよう。

サバンナ　・さばく
・水が少ない。
・ひしゃく二はいでぜんぶあらう。

写真

学校からかえるとすぐ水くみ

・やらなくちゃ。
・毎日のしごとだ。
・たいへん。
・おもい。

写真

水くみをいやだといったことは一どもない

・じぶんのしごと。
・がんばるぞ。
・やらないとめいわくが。
・かぞくがたすかる。
よろこぶ。

写真

ラジャブのくんできた水でチャイを入れてくれる

・おいしい。
・うれしい。
・よろこんでくれた。
・やくに立った。
・また、がんばろう。

**かぞくのために**

写真

7　資料分析

（1）ねらい　　家族の一員として仕事をし，家族の役に立つ喜びを感じているラジャブの気持ちを通して，家族のために進んで手伝おうとする気持ちを育てる。
（2）資料名　　サバンナの子ども（出典　学研）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 主な場面 | 学校から帰るとすぐに水汲みに行く場面 | ラジャブが水汲みを嫌だと言ったことが一度もない場面 | 夕食後に，チャイを飲みながら家族と話し合う場面 |
| 把握すべき状況 | ・ラジャブの朝の仕事は，牛を外に出して，草原に連れて行くこと。<br>・村に一つしか共同井戸がなく、朝から晩までたくさんの人が順番まち。<br>・水はとても大切。ひしゃく二はいだけで頭のてっぺんから足の先まであらう。 | ・家の人たちが　喜んでくれる。 | ・ラジャブのくんできた水で，お母さんがチャイを入れてくれる。<br>・チャイを飲みながら，家族と話し合う。 |
| 主人公の心の動き | 責任感<br>勤勉<br>苦痛<br>・ラジャブは学校から帰ると，すぐ水を汲みにいく。 | 家族愛<br>責任感　喜び<br>勤勉　意欲<br>・水くみを嫌だと言ったことは、一度もありません。 | 家族愛<br>喜び　意欲　満足感<br>・チャイを飲みながら、家族と話し合うときが大好き。 |
| 児童の反応 | ・ぼくの仕事だからやらなきゃいけない。<br>・お姉さんも水汲みをしているから，ぼくもやらなきゃ。<br>・嫌な気持ちもあるが，やらなきゃいけない。<br>・毎日の仕事だから仕方がない。<br>・重くて大変だ。 | ・水汲みをすると，家族が喜んでくれる。<br>・ぼくが水汲みをすれば，家族が助かる。<br>・自分がやらないと家族に迷惑をかけてしまう。<br>・家族のために頑張らなきゃ。<br>・水汲みは，自分の仕事だ。 | ・家族が喜んでくれるので，またがんばろう。<br>・ぼくの汲んできた水が役に立っている。<br>・頑張って水汲みをしてきてよかった<br>・家族みんなに喜んでもらえてうれしい。<br>・家族と仲良く暮らせて幸せ。<br>・ぼくの汲んできた水でチャイが飲めてうれしい。<br>・おいしい。 |
| 基本発問 | ○学校から帰るとすぐ水汲みにいくラジャブは，どんな気持ちなのでしょう。 | ○水汲みを一度も嫌だと言ったことのないラジャブは，いつもどんなことを思ながら水汲みをしているのでしょう。 | ◎ラジャブの汲んできた水で入れたチャイを飲みながら家族と話をしているラジャブは，どんなことを思っているのでしょう。 |